

# 統計におけるオープンデータの今後の展開について

総務省統計局統計情報システム課 岡 誠一

オープンデータを巡る政府の取組みについては、「電子行政オープンデータ戦略」（平成 24 年 7 月策定）や「世界最先端 IT 国家創造宣言」（平成 25 年 6 月閣議決定）等により、公共データの民間開放や活用推進の方針が定められている。また「世界最先端 IT 国家創造宣言」では、平成 26 年度及び 27 年度を集中取組期間としており、本年度はこの期間の最終年度に当たるので、これまでの統計分野における実績について整理するとともに、今後の展開について述べる。

総務省統計局及び独立行政法人統計センターは、「政府統計の総合窓口(e-Stat)」(以下「e-Stat」という。)を通じて、平成 20 年 4 月から政府統計を一元的に提供するサービスを実施しており、CSV 形式、XML 形式の機械判読可能なデータ形式での統計データの提供も実施している。この点から見れば、上記「電子行政オープンデータ戦略」策定以前から、統計のオープンデータ化を実施していることになる。また、平成 26 年に二次利用が可能な利用ルールでデータが公開されるよう、ホームページ等の利用規約を見直したところである。

更に、統計データの高度利用を可能とするため、①「API 機能による統計データの高度利用環境の構築」として、利用者が自動的に統計データを入手・加工できるようにする機能を平成 26 年 10 月に提供を開始。また、②「統計 GIS の強化」として、既に e-Stat 上で提供している「統計 GIS」に、ユーザ保有データの取り込み分析の機能等を有する「地図による小地域分析(jSTAT MAP)」を平成 27 年 1 月に追加して提供している。また、これらの機能に対応した統計データの拡充も進めているところである。

その他、③「オンデマンドによる統計作成機能・方策の研究」を引き続き、実施中である。

今後の展開として、地方自治体や民間企業における統計データに基づく高度な分析を支援することにより、公共サービスの向上や地方の企業進出など、地域の社会・経済の活性化に貢献することを目的として、統計におけるオープンデータを更なる高度化させること、すなわちオープンデータの先進化が必要と考えられる。

この先進化の方法のひとつとして、現在 e-Stat 上で CSV 形式、XML 形式で提供している統計データを、RDF 形式のデータに他のデータのリンクを付加した LOD (Linked Open Data) 形式で公開することが考えられ、統計データの利用の拡大が進むものと期待される。

この統計におけるオープンデータの先進化を図るためには、データ提供等に当たっての課題の把握、整理等が必要であり、平成 27 年 4 月から福井県及び福井県内市町等と協力してモデル事業を開始した。

本講演では、以上の事項について説明することとする。